

ごあいさつ

本日は TRD 工法協会の設立 30 周年記念パーティを開催しましたところ、数多くの方々にご参列いただき心より感謝申し上げます。

TRD 工法協会は 1995 年 10 月に設立しました。本年度で 30 年を迎えることとなりますが、これまでの皆様からいただいたご厚情に対し、改めて御礼申し上げます。

TRD 工法は、1992 年に開発されたもので、カッターチェーン方式の重心の低い安定した施工機械によって、等厚で打継ぎ目がないため止水性が高く、また原位置土とセメントスラリーを上下攪拌するため品質の高い地中連続壁を効率的に造成できる工法です。開発 3 年後に TRD 工法協会が設立したことになります。

当時、私は基礎や土留め壁関係の研究をしていましたが、この工法の説明を受け、「まるでチェーンソーで地盤を掘削するようなユニークな工法でありながら理にかなった工法である」との印象を受けたことを今でも憶えています。

開発当時は、主に建築工事の仮設土留壁として施工をしておりましたが、当工法の利点を活かして、土木工事へも採用され始めました。土木工事では当初は河川工事での事例が多く、その中でも 1996 年の「信濃川大河津分水洗堰」や、1997 年の「正蓮寺川総合整備事業」などは、会員各社が大変苦勞した大規模工事だったと聞いております。

1997 年には TRD 工法は現在の(一社)日本建設機械施工協会より技術審査証明を取得しております。

また、当時の建設省関東地方建設局と神戸製鋼所で共同開発した斜め壁の「地中控え護岸工法」は、建設省主導で実証試験を行い、(一財)先端建設技術センターと共同して設計指針を策定したうえで、実現場で採用されました。その後は、多自然型川づくりの一環として建設省と国土交通省の低水護岸工事に採用されています。この「地中控え護岸工法」は NETIS にも登録され、2009 年には「準推奨技術」に選定されています。

TRD 工法は、2000 年頃からは下水処理場、ポンプ場や調整池、そして道路や空港などの土留め壁、止水壁、さらには汚染物質の封じ込め対策などの多くの分野の工事に採用され、施工量も大幅に増加しました。

TRD 工法の技術は国内にとどまらず海外においても採用され、2005 年から米国ではカリフォルニア州やフロリダ州で、2007 年にはシンガポールで、そして 2010 年から中国では天津市や上海市などの大都市で多くの施工実績を重ねております。

近年では、東京外環自動車道などの大深度・大規模道路事業や、東京、大阪、名古屋などの大都市圏での再開発事業に伴う民間建築事業などに TRD 工法が多く採用されています。また、壁厚が 1.2m まで対応可能な TRD-wide 工法を 2019 年に新たに開発し、2020 年には横浜湘南道路に採用され、その後、民間建築事業でも採用されました。

このような多分野にわたる多くの実績を積み重ねた結果、この 30 年間では、最大深度は 60m となり、国内においては、昨年(2024 年)の 12 月末現在で、施工件数は 890 件、累積の施工壁面積は 491 万平方メートルに達することができました。これもひとえに皆様方の長年にわたるご支援の賜物と感謝申し上げます。

今後は、TRD 工法協会として、技術の研鑽を積み重ねさらなる工法の改善・開発を図るとともに、工法の普及と需要拡大に向けて努めてまいりたいと考えています。

最後になりましたが、関係者の皆様方には、これからも TRD 工法へご理解をいただき、なお一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025 年 2 月 14 日

TRD 工法協会 会長
中野正則